

(2) 分析

① 授業の計画と実際について

右の図のようになっている。計画の②が、実際には、二つの節に分けられて展開されている。また、計画案の、③④が、一つのまとまりとして、行われている。しかし、これは、次々と、単線的に連続している型であるので、どこで切れるかは観点により変わるものと思われる。

計画案③の、「交換して読み合ったりして」は行われなかった。計画通りなら友だちの指摘の生かし方、この分節の時間がのびること、など、これからあとの流れはかなり変わったものになったであろう。

各分節への時間配分と、実際の使用時間に若干のズレがある。④にもうすこし時間をかけることにしたらどうであったろうか。

② 教師の予想した答と、子どもの答とのズレについて

これは、③の⑥の段落の研究の時でてくる。

ここで、教師は「T₄₈、そのつぎの、じゃ、これは何かありますか。」ときいている。ここは、このままで、直さなくてもよいと考えている。ところが、「C₂₉ 切った方がよい」という考えが出されかなりの子がそれを支持する。「T₅₄、ちがうことが書いてあるの、この中に。」と、きかれ、子どもたちは、自信なげになる。

ここには、ちがうことが書かれていると子どもたちはとらえたのであろう。「どんなところにすんでいるのか」と、「学校の様子も知らせて」と「また会えるといいな」、とは、同じことがらとは言えないのではないか。たしかに、「たずねること」としては同じであろう。

「たずねること」として同じだから、切らなくてもいいとすれば、「知らせること」として同じだったものを、前に分けたのはなぜかと、つまずいたのであろう。

4行ほどで表現されているのであるから、ことごとくに、無理にわけなくてもいいところではある。しかし、分けて、ことごとくに、もうす

指導過程の比較

(案) (実際)

分節	主な学習活動	時間	分節	主な学習活動	資料等	時間
①	本時のめあてについて話し合う	3分	① (説明・話し合い)	本時のめあてをとらえる ①組み立てメモをつくる ①どんなものか知る— ②メモの必要性に気づく ②意欲をもつ ③書きなおすためのメモであることを知る	O.H.P 作成者の発表	3分
②	友だちの手紙をもとに全員で、どこをどう書き直したらよいか考える ①段落のまとめりはどうか ②話しかけるような気持ちで書いているか ③書く順序はどうか (評価) 推考の観点をとらえたか	10分	② (話し合い)	どんな点をなおすのか明確にとらえる(前時の復習) ①何を書くかきめる ②じゅんじょよく ③だんらくのまとまり ④大事なことをおとさない	ととのえて書く	6分
			③ (読み・話し合い)	友だちの手紙の研究 ①全文のよみ ②はじめのあいさつ ③段落をわけ ④段落をまとめる ⑤順序をととのえる ⑥終わりのあいさつ ⑦あとづけ ⑧①～⑦までのまとめ	O.H.P (指名読) O.H.P 大きなメモ用紙 O.H.P O.H.P O.H.P O.H.P (位置) カード	15分
③	初めに書いた手紙を自分で読み返したり、交換して読み合ったりして、書き直すところを見つける (評価) 書き直すところを見つけることができたか	20分	④	組み立てメモをつくる 1)自分の手紙をよみ返す(③の②～⑦の観点) 2)書き直すためのメモをつくる(メモ表への書きこみ)		11分
④	書き直すところをはっきりさせ構想を立てる					
⑤	構想メモをもとに書き直すところを発表する (評価) 書き直すところをみつけ、構想を立て直すことができたか	7分	⑤	発表する(④の②) ①簡単なメモ(多くの子) ②すこしくわしいメモ ③くわしく具体的なメモ ④書きたておくこと(指示)	O.H.P 作成者の発表 O.H.P 作成者の発表 O.H.P 作成者の発表	5分
⑥	次時の学習について話し合う		⑥	次時の学習について知る メモをもとに手紙を書く		2分